

# DSKを利用した授業展開案

2006年4月

## 1. 本資料について

本資料は文部科学省の[新学習指導要領](#)に基づいて作成し、DSKを教材として利用した授業展開の一案として提供されるものです。

## 2. 本資料使用時の注意

- (1) 本資料は、各学校の教科指導方針・学習過程に基づき、各指導教諭が内容を適切に改定（加減）して使用することを想定して作成されています。
- (2) 本資料は、DSKを利用した授業を展開する特定の教科を定めていません。本資料中にDSKの一サイトを例として使用してありますが、各指導教諭の指導目標及び手法に従って、適切なDSKサイトを主教材または副教材として選択し、活用いただくことを想定しています。
- (3) 本資料の活用は、各指導教諭の責任において実施を行ってください。

※（小）小学生・（中）中学生・（高）高校生の略。

教科（科目）	総合的な学習・地理歴史・美術
主題	シルクロードを通じた東西交流
学習目標	<p>（小）ユーラシア大陸・日本間の交流が相互の文化に及ぼした影響の考察を通じて、日本と世界の繋がりを理解させ、世界に対する関心を抱かせる。</p> <p>（中）各地域の諸事象を全体的に俯瞰しながら各地域の差異や共通性を環境条件や人間生活の検討から考察し、地方的特色や一般的共通性を認識させると共に、それらの諸条件に伴う変容を理解させ、国際協調の精神を養う。</p> <p>（高）諸地域の相互交流による世界の一体化・世界形成の歴史的過程と生活及び文化の地域的特色についての理解と認識を深め、世界を多角的に考察することによる思考力・判断力を培い、国際社会の一員としての自覚と資質を養う。</p>
指導目標	<p><b>【学習のねらい】</b></p> <p>（1）シルクロード上に点在する同一・類似モチーフを持つ美術品の紹介を通じて主題に対する興味を高める。</p> <p>（2）異なる地域から同一・類似モチーフを持つ美術品が発見される背景を考える。</p> <p>（3）シルクロード・東西交易路がどのようなルートであったか、またその役割を学習することで、各地域相互の関連性と異文化間影響を理解する。</p> <p>（4）考古学や神話・伝承の学習を併用し、当時の人々の信仰やものの見方を考察できるようにする。</p> <p>（5）文化財保護の意義について興味を持たせ、その重要性を認識・理解させる。</p> <p><b>【学習方法のねらい】</b></p> <p>（6）遺跡や文化財の観察や調査、考察の習慣付けを行う。</p> <p>（7）学校図書館や公共図書館、コンピュータやインターネットなどを活用し、資料の収集・活用・整理を行い、またそれを発表できる能力を育てる。</p> <p>（8）地理的な見方や考え方、地図の読図や作図が可能となるように指導する。</p> <p>（9）資料・史料に多く触れさせることでそれらに基づいて歴史が叙述されていることを理解させる。</p>
キーワード	<p>（小）大陸文化の摂取 遣隋使 遣唐使 飛天 法隆寺 正倉院 飛鳥文化 天平文化 シルクロード（絹の道）</p> <p>（中）正倉院宝物 螺鈿紫檀五弦琵琶 碧瑠璃杯 白瑠璃碗 白瑠璃瓶 鳥毛立女屏風 樹下美人図 胡人</p> <p>（高）アレキサンダー大王の東征 ヘレニズム文化 ガンダーラ美術 マトゥーラ美術</p>

指導上の留意点	時間配分	学習活動	教材・課題例 (教材：DSK むり絵シルクロード)
			<課題> ・法隆寺金堂壁画の“飛天像”か“有翼人物像”付のプリントを事前に宿題として配り、それが何（の絵）であるかを <u>事前に考えてこさせる</u> 。 ・“シルクロード”とそれにどんなルートがあったかについて、 <u>各自に調査させる</u> 。
・日本国内の美術と世界の美術を繋げる ・日本文化に対する国外からの影響を発見させる ・東西交流があったことに気づかせる。	5分   10分	<導入> ・ <u>挙手で課題回答</u> を出させる。各課題の簡単な説明をする。 ・各地域で表現された飛天・エンジェル像を紹介する。他の例として正倉院宝物を紹介する。同一・類似する遺物は各地域間の交流・交易を証明していることを示唆する。ルート毎に遺物が異なることを説明する。 (板書)	・ユーラシア大陸の白地図又はプリントを準備し、各地域の飛天像や共通性のある遺物を配置して生徒に見せる、もしくは配布する。 ・DSK サイト上の各種飛天像を見せる。 (DSK サイトにも同地図・各飛天の画像と特徴を簡易に説明したサイトあり。)
・交流地域、交易路、人物移動、地域の信仰を推察させる。 ・地域間の格差・同一点を考察させる。	3分  5分	・各地域の特徴を考察させ、 <u>意見を挙手</u> で出させる。 ・ <u>どうして異なる地域で同一又は異なる遺物があるようになったか、班毎に考えさせる</u> 。(板書)	・班内で意見をまとめさせ、 <u>各自はそれをプリントに記入</u> する。
・東西交易路が東西各国に大きな影響を与えたことを理解すると同時に、交易が継続するための条件を考察させる。 ・調査方法を提示する。	12分  10分	・ <u>班毎の意見を発表</u> させる。(板書)  <まとめ> ・なぜ、東西交流が可能になったかを考察させる。 <u>意見を挙手</u> で出させる。(板書) ・各地域間に交流があり、それが重要な事象であることを理解させる。 ・日本が西方文化と繋がっていることを認識させる。	<課題> (小) ① <u>授業後の個人の意見のプリント記入</u> 、② <u>人物画像のむり絵の提出</u> 。 (中) ① <u>東西交易路が果たした意義の考察</u> 、② <u>文化交流があったことを示す飛天以外の造形物を調べて提出</u> 。 (高) ① <u>東西交易路が果たした意義</u> 、② <u>東西交流が可能となり継続された理由を次回授業前までにレポートで提出</u> 。

※下線部分：評価方法・箇所

以上